

ラテンアメリカ・レポート

目次

VOL20.N02

フオコラウ

- サパティスタの挑戦 ●山本純一 1
——反グローバリズム・新ナショナリズム
ム・脱国家ローカリズム
-

特集 10年後の政治的調整

- 特集にあたって ●坂口安紀 2
- ペルーのネオリベラリズムと政治危機 ●遅野井茂雄 4
- エクアドル ●新木秀和 12
——政治変動とネオリベラル経済改革
- 自由と公平——ブラジルの経済改革 ●小池洋一 20
- ベネズエラの政治危機とネオリベラリズム ●坂口安紀 31
——経済社会的側面からの考察
-

- アユック・コミュニティ高校：BICAP ●米村明夫 42
——メキシコ先住民コミュニティの教育
プロジェクト

- 経済自由化改革のなかのアンデス小農 ●清水達也 52

- サンパウロの住民参加型住宅政策 ●近田亮平 62
——都市貧困削減の可能性と限界

現地報告

- キューバの自動車流通・産業事情 ●芹田浩司 72
-

- 資料紹介 82
-

反グローバリズム・新ナショナリズム・脱国家ローカリズム

メキシコの民主化と社会正義の実現を掲げて武装蜂起したサパティスタ国民解放軍は、世界的な規模での反グローバリズム運動の契機をつくったといわれる。1996年7月末から8月初めにかけ、「人類のため新自由主義に反対する大陸間会議」を彼らの本拠地のラカンドン密林で開催、世界40数カ国から5000人ほどの参加者を集め、新自由主義に抵抗するネットワークを形成したからである。今年の9月にメキシコの観光地として有名なカンクンで開催されたWTO閣僚会議においても、親サパティスタの団体・個人が反対運動を展開し、積極的な動員を図ったことを筆者は目の当たりにしている。

サパティスタのこの反グローバリズムは、歴史的にみるならば、「われわれは500年の闘いの中から生まれた」と、1994年1月の武装蜂起時に発表された「ラカンドン密林宣言」で主張したように、西洋による征服に対抗する運動であり、征服の結果生まれた現在の国民国家に対し、インディオを正式な国民の一員として承認せよとする国民国家の再編運動、さらには国家と国民を食物にしてきた為政者に対する異議申し立てでもある。彼らのナショナリズムは、グローバリゼーションという外圧によって崩壊もしくは分裂の危機にある（と彼らが考える）国民国家の再生を訴えるが、全体主義に陥るのではなく、先住民族であるインディオの多様性とアイデンティティと自治権を認めた多民族多文化国家の実現を要求しているという点で「新しい」と理解される。もちろん、ナショナリズムが理論的・歴史的にみて同化（他者をつくりだし、これを排除する）傾向をもつことから、サパティスタの求める「多様性の中の統一」は非常に困難な課題といえる。事実、先住民族の権利と文化の承認をめぐる憲法改正問題は、当初、連邦政府とサパティスタ側が合意した原案通りではなく、サパティスタ側からみれば自治権の大幅な削減という「改正案」が国会と過半数の州議会で承認、2001年8月に公布された。そしてサパティスタの訴えを踏みにじる「改正」に反対する様々な市民団体が最高裁に提出した違憲審査請求も棄却され、現フォックス政権との和平交渉再開の望みは絶たれたのである。

このように出口の見えない状況下において、サパティスタ側に大きな変化が起きた。憲法改正原案を自主的に施行、自治権を行使するとコミュニケで発表し、今年の8月8日～10日に、彼らの重要拠点の一つであるチアパス高地オベンティックで国内外の市民を含む延べ2万人ほどの参加者を集めた記念集会を開催、これまでに解放した30の行政区を五つの自治組織（「良き政府評議会」と命名）に再編、解放軍の権限を同評議会に委譲したのである。このような自治権行使は違憲ではないかとの声も上がるなか、連邦政府は、クリール内相が「それほど憲法には違反していないだろう」というあいまいな談話を発表したように、もはやサパティスタには大したことはできまいとの余裕の表れか国内外の世論を考慮してか、事を荒立てない構えでいる。また、テレビのインタビューでこの問題について質問されたチアパス州知事も「サパティスタはサパティスタの自治モデルを他の地域に強要してはいない」（だから、取り立てていうほどの問題はない？）と答えている。しかし、自治組織が住民登録や徴税を行なうといった自治権の行使が、既存の行政府・法制度・社会秩序に大きな影響を与えないわけではなく、また、サパティスタの自治区構想自体、確固たる経済基盤や戦略が明らかでなく未知数な部分が多いだけに、今後の成り行きが注目される。

最後に（but not least）、サパティスタのこれらの挑戦は、新自由主義という大きな流れに押し流されることなく積極的に「もう一つの世界」を構想・試行し、差異を認めた国民統合と地方分権・地域自治の実現を目指すという意味で、現在の世界の権力構造と国民国家体制に変容を迫るものである。体制内変革にしかすぎない「周回遅れの構造改革」に躍起となり、単一民族の神話と国家中心主義の呪縛から逃れることのできない（としか筆者には見えない）今の日本にとっても、多くの示唆を含むものではないだろうか。

●編集後記

- ネオリベリズムは、1980年代の経済危機以降ラテンアメリカ各国の経済政策において支配的な影響力を及ぼしつつ経済、社会の大きな変化をもたらしてきました。本誌は5年前に、特集「新自由主義下のラテンアメリカと政治の課題」(Vol.15, No. 21 1998年)を組んでいます。
- 本号の特集では、改めて1990年代に実施されたネオリベラルな経済改革に焦点を絞る、最近の各国の政治的な変化、動向が、人々の改革への反応の結果として理解できるかを探ろうとしました。
- ボリビアにおいてサンチェス大統領が10月17日辞任したとの報道がありました。民営化、外資導入を進めてきましたが、天然ガスのメキシコ、米国輸出計画を実施しようとしたことをきっかけとして、労働者、国民によるゼネスト、反政府デモが繰り返された結果です。同大統領は、1993～97年に続いて、2002年より2期目を務めている最中でした。
- この10月1日より、日本貿易振興会は、独立行政法人日本貿易振興機構となりました(略称JETROは変わらず)。アジア経済研究所も組織変更がありましたが、本誌『ラテンアメリカ・レポート』は、これまでと同様、読者や著者の皆様の支えによって、ビビッドな内容、学術的水準の保持に努力したいと思っております。
- 『ラテンアメリカ・レポート』の1995年から前年号までのバックナンバーが当研究所のホームページ(<http://www.ide.go.jp>)で近日中に公開される予定です。どうぞご利用下さい。

(米村明夫)

編集委員会：米村明夫、星野妙子、宇佐見耕一、坂口安紀、山岡加奈子、北野浩一、近田亮平、佐々木茂子、村井友子、加藤真穂

▶インフォメーション

- ▶最近のアジア経済研究所の出版物
- 宇佐見耕一編『新興福祉国家論——アジアとラテンアメリカの比較研究——』(研究双書531) v+391ページ, 2003年。
- 米村明夫編『貧困と教育——メキシコとブラジル——』(調査研究報告書 地域研究第2部 2002- III-10) iv+184ページ, 2003年。
- 星野妙子編『発展途上国のファミリービジネス——資料集——』(調査研究報告書 地域研究第2部 2002- III-07) vi+307ページ, 2003年。
- 星野妙子編『発展途上国の企業とグローバリゼーション』(研究双書522) v+339ページ, 2002年。
- 星野妙子・北野浩一編『企業研究情報マニュアル——ラテンアメリカ4カ国, アジア5カ国・地域——』v+153ページ, 2002年。
- 宇佐見耕一編『新興工業国の社会保障制度・資料編——アジアとラテンアメリカの比較研究——』(調査研究報告書 地域研究第2部 2001- II-04) vii+265ページ, 2002年。
- 村上薫編『後発工業国における女性労働と社会政策』(研究双書523) iv+217ページ, 2002年。(アルゼンチンとメキシコに関する論文含む)
- Hamaguchi, Nobuaki (organizer), João Carlos Ferraz, Carlos Frederico Leão Rocha, *A Study on the Impact of Economic Liberalization in Brazil: 1995-2002*, L.A.S. Series, Institute of Developing Economies, iii+167pp., 2003.
- Shimizu, Tatsuya, Alfredo Valencia, Jeffrey Gamarra, *El desplazamiento y la integración de la economía rural al mercado: los casos de Ayacucho, Perú*, L.A.S. Series, Institute of Developing Economies, iii+77pp., 2003.

ラテンアメリカ・レポート Vol.20 No.2

2003年11月20日発行©

定価840円(本体800円)

編集・発行 独立行政法人日本貿易振興機構

アジア経済研究所

編集 地域研究センター

発行 研究支援部

〒261-8545 千葉市美浜区若葉3-2-2

TEL 043-299-9735 FAX 043-299-9736

E-mail: syuppan@ide.go.jp

印刷 東京コロニー